

1. 適正譲渡の4つの柱

現在多くの自治体で動物の譲渡事業が行われています。この事業で重要なのは、単に譲渡数を増やすことだけではなく、適正な譲渡を行い、地域の模範的な飼い主を増やし、ひいては行政に引取られる動物の数と、その殺処分数の減少につなげることです。適切な譲渡事業を今後も息長く続け、効果的な飼い主教育を行うために、まず、行政が行う譲渡事業の意味やビジョンを職員間で確認しておきましょう。

① 収容される動物を減らす

■ 飼い主への返還率をあげる

捕獲収容された飼い主不明の犬が、飼い主の元に戻る確率はどの程度ですか？その数字が低い場合は、飼い主に対する教育が必要ということになります。

①鑑札やマイクロチップなど、飼い主明示のIDを犬に付けること

②犬が迷子になった場合、どこに連絡し探せばいいかの情報の普及

保健所や収容施設に連絡するという方法を知らない飼い主も結構多くいます。

狂犬病予防接種、動物愛護週間、事前講習会などの機会をとらえ、繰り返し広報し、一般に周知させていくことが求められます。マスコミの活用も有効です。



■ 窓口で適切な指導をする

飼育放棄で飼い犬の引取りを求められたり、飼い犬や飼い猫が産んだ子犬・子猫の引取り依頼があった場合、飼い主の責任について十分な指導を行う必要があります。

■ 動物取扱業者への啓蒙・教育を行う

ブリーダー、ペットショップなどの動物取扱業者が、一般市民に対して安易な飼養を勧めたり、適切な飼育案内をしていなかったことが原因で、飼い主による飼育放棄が起こることもあります。またブリーダー崩壊によって数多くの動物たちが行き場を失う問題も多く起きています。こうした悪循環を予防するために、動物取扱業者に対する啓蒙、また職業倫理の徹底をうながす必要があります。

② 適正な飼養者を増やす

譲渡された動物が再び収容されることがないように、そのためには……

■ 譲渡の際に適切な飼育指導をする

事前講習会、譲渡後のしつけ方教室などで、適切な飼育方法を伝えましょう。

■ 飼育相談に適切に対応する

吠える、引っ張る、トイレがうまくできないなど、電話や来所による相談があった場合に、適切な対応（その場でのアドバイス、専門家の紹介、情報提供など）をすることで、問題が深刻な飼育放棄につながらないようにしましょう。

■ 住民に対して譲渡事業のPRを行う

行政の現状や譲渡事業について、積極的に地域にアピールすることで、動物愛護事業への理解が深まり、ひいては適正飼養者を増やすことにつながります。広報誌や地域のマスコミを活用し、動物を飼っている人以外にも、常に情報発信し、行政が行う事業に対するサポーターを増やしていきましょう。

■ 動物取扱業者への啓蒙・教育を行う

動物を販売する際には、購入者に対しての「説明責任」が法律で定められていますが、その徹底や、内容が適切かどうかなど、取扱業者への研修などの機会をとらえ教育し、また、問題が多い業者に対しては個別に指導するなどの対応は非常に重要です。



③ 適性ある動物を譲渡する

適性ある動物を譲渡することで、その後の適正な終生飼養を可能にし、地域社会でのトラブルや事故を防ぐことにもつながります。特に攻撃性が認められる動物についての判断は、行政だからこそ慎重にならざるをえません。非常に難しい選択を求められる作業ですが、安全であることを重視し進めていくことが、譲渡事業の継続にも関わってきます。そのためには……



■ 適性評価を行う

環境省がこれまでにDVDやテキスト、講習会で伝えてきた「適性評価」の方法を基に、それぞれの地域の実態を踏まえた適性基準が求められています。

収容施設にどの程度余裕があるか、リハビリに手をかけられるか、団体譲渡を行っているか、譲渡希望者が多いか少ないか、ボランティアの協力はあるかなど、さまざまな条件に合わせて、テストや判断を行いましょう。

■ 動物と譲渡希望者のマッチングを行う

最も重要な作業です。このマッチングを丁寧に行うことで、ボーダーラインにある多くの動物にも譲渡の可能性が出てきます。

④ 不妊去勢手術を徹底する

譲渡事業の成功は、不妊去勢手術の徹底を抜きにはありえません。特に猫に関しては、現在殺処分数の8～9割が子猫であることを考えると、飼い主に対する不妊去勢手術の啓蒙が急務でしょう。また、「地域猫」や「野良猫問題」も含めた大きな視点からの問題解決が求められています。



以上のようなポイントを理解せずに
譲渡事業を進めると……



①不適正飼養者の増加
～苦情の増加



②収容動物、
処分数の増加



③事故や公衆衛生
問題の発生

ただ単純に譲渡すればいいわけではありません。
そのためには、飼い主教育、地域への啓蒙など「伝える作業」も重要です。
この本を参考に「積極的かつ効果的に伝える」ことを始めましょう。